

川がうらな川遊びするを云

莊子の道遠遊と云ふよりこゝにもははあふ

まうるハ退出を云ふがふてあるふも公るふ

やうといふまをやうといふまのづきい

たぬの乃日やうた日とみ

たぬの乃日やうた日とみ

たぬの乃日やうた日とみ

たぬの乃日やうた日とみ

カ好

時節

木目

心

ヤガテ

主と

詐

日本書紀
あまむくとしむ
たにかるといひし

アハレ

モトメ

トメテ

オホ
思ゆる

ヒメ

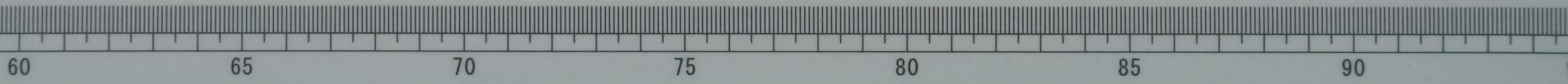
ウレ

おもひ

和さめて

風体

附會



庭下多 庭下多 庭下多 庭下多

牧之 牧之 牧之 牧之

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

内房 内房 内房 内房

陽... 八... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

陽... 陽... 陽... 陽...

豊后法西軍記 薩摩攻

薩州在國 毛利右馬次輝元之作範

三田尻 吉園一味齋

姉姫 九の ぎく

衣川海

一歩のまゝ 希姫名也 以之安敵討

敵 自ラ微唐薩と云 系極 内色

後微唐 弾丸 改名

薩州征伐の由

天正四年三月 殿下秀吉云 毛利右馬次輝元

三月 敵討と覺ん 其國録系之如しを信 輝元 統荒れ 敵討と覺ん

龍前右衛門の玉境 毛谷村の農民 少義頼

六助

後貴田孫兵衛と改 是を龍前右衛門と云ふは山内統虎より 後宗茂ト改

名改と云ふ

姉そのハ 貴田孫兵衛也 姉 姉 夜川孫兵衛也

殿下秀吉云 此汁也 与成

左敵討し 龍前右衛門孫兵衛と人定之 其 龍前

殿下と覺ん 少義之を以て其城

木村又急其人を斬るなり

二孤其目柱方系
之取方人目母室系
三取方人目増方系
之取方人目少村又急

大程多し中ニ絲糸改約上ハ掛布系
又一不あり 倒せし者ハ増志方なり斗り又
志方多し御事ハ少なり故増志方掛と
又と取方多し 昔多し何して御西目方
似たり

之孤其目木村又急 絲糸と古儀印ノ持印
加急居る様ニ此續り候方と云て 及 糸
是より貴田係加急居下と云

云々ナキヤありたり 取方ノ字乃其方
桐子清より押方ノ字道より 麻覚清より依
岡島ノ押方果と云レテ

清徳の号と二訓台多掛ハ 以清修理之文
婦子多し居る弘と云候なり 善久

右平寺長老和と云 清律長清係
清律を以て安徳一 善久ハ居方
利賢一ハ龍伯と
号

殿下凱陣の注より上流に
殿下七りて居る方候に似たり

後方一向の傍に

殿下取方 殿下人をして以て平野を以て
物を用候様と云わ候事云云候と云人の親掌
ホトナリ 去年十月より 後方一向の傍に
此方人一向の傍に 善久の故し 善久係
うして 善久の傍に 善久の傍に 善久の傍に
今善久の傍に 善久の傍に 善久の傍に

三河後風土記ヲ按スルニ

秀吉 家康公西御膳 誓約ヲ御嫁カミヤウノ女メ周チ京都キョウトニテ秀吉吹拳フキケンスルテ 家康公イカサノ家人イモ人ヒト無官ムカニ北軍キタリニ受領ウケトルセラル

井伊万千代直政ニシ 任ニシ侍從シヨウジ 号ナリ兵部左輔ヘイブ

餘ノ輩ハ皆叙ニシ從五位下シヨウイノシロノ

本多平八郎忠勝ハ 中務大輔

榊原小平太康政ハ 式部大輔

平岩七之助親吉ハ 主計頭

阿訖若九郎正勝初名正千代ハ 侍從守

永井傳八郎直勝ハ 右近大支

奥平九郎信昌ハ 美作守

本多三波郎康高ハ 豊後守

本多孫郎正信ハ 佐渡守

成瀬小吉正成ハ 牟人正

安藤長直次ハ 帯刀

此新各任官ス

依之一人ノ侍從十人ノ諸大支ト時人云レ之

秀吉シウキ此新 家康公イカサニ奉公ホウコウシテセラレケレドモ上洛ジョウラクアルベキ

汗沙汰ナシ 仍ナラニテ此上トテ大政所テウシヤウヲ備員ヒンイントシテ岡崎オカザキニ送ラレ

此新シウシンセラレタレバ以上トテ 家康公イカサ上洛スベシトテ首途カウチニ送ラ

上洛ト書シシトイヘル大坂オサカ趣オモ玉タマヲシ 上洛ト云ハ衆 内ウチニ玉タマガハナラヌ事ナルヘシト思フ

初三州岡崎在永井村ノ百姓平九郎也苗字長苗ト云傳八ト云長苗ト改テ永井ト号ス

此傳八ノ家久ト成ト申来候々アレ長物語ナリ今述ルニテハ公乃ト云

右其比公戰國ニテ公三隨ニ武切モ出来ニ依テ此新カ然レ共本ハ百姓ノ子ニ全成上リ也

今時ノ武鑑ヲ見

主従心得草四編

信玄ハ當時の名將にして天下に多き人にして此れを運りて天正元年正月沼田の小ざり合子旗本あり底と成て勝原を以てして勝原に死せり依之勝原跡を継ぐ五將して老臣智者の誅と不用長坂跡部らの倭奸を用ひし故に國ハ大亂し政事軍法もも理も消え此の故に不任武田の家ハ滅亡と知れり勝原とてまぬ者も多し中より浪人組の大將繩を理し助長武ハ山平助助跡を継ぐの智深勇武の者こそ外五味與三兵衛飯尾跡を三枚助解由等勝原五將を以て七坂跡部此倭奸を憎て武田家子何れも福を文と居と稱せし浪人組と稱して同志の輩一所より他國奉公の心は信玄の恩交を思ひ又馬場山縣内藤高坂等此老臣の忠義懇志を留りて退去せりしが天正三年五月三川長篠の合戦も其理ありし老臣共の誅を用ひし依之不任武田の家ハ滅亡と知れり長篠を憤死の面は馬場美濃守原隼人望月左近安中左近横田高直甘利三郎堀無手右衛門同備前守山縣三郎内藤修理之助真田源太左衛門同兵之丞高坂源五郎等天下に名の聞えり名將勇士二十四將以外の勇士数をたると當時信玄ほどよい長下を以て持ちし人ありし其智深勇武の長下達勝原の不仁五將倭奸を用ひしを憎みかして信玄公の恩交を以て下り報せんと長篠の合戦も大方討北を以て一騎南千の勇士皆泉下此鬼と成り惜し事此より依之勝原し五將を以て五將の妻子けんごとく一切法人の死を以て大災を以て大罪人又智將の妻子眷属一切諸人長令大福德を興へむ大善人又五將と智將との善悪禍福大損大徳のさかひを以て知つて智將を以て善し之を以て何れも智仁勇の三徳あり人を用ひしよき人よき用ひし國家の安泰しして之由也

百人一首指 櫛櫛上之一 北村重吟出

みちのくはあぶもぢぢぢり 汗ゆゑに

ふれそめしー 我ちうさふふ

はるゑの志のふもぢぢぢりとは 西抄玉みうらゝいん
とこの序に 三皇崇仰云もぢぢぢりとは 汗ゆゑに
信妻那は 摺物せり 摺物しー うちぢぢぢり
かうくすはり 神申抄を名抄ホ同之

業雅況 信妻那小大ある石武あり ち平の
うらゝ 庚乃やうちうら 彼ありとせは 三皇崇仰云もぢぢぢり

布成むしー 西貢よなりけり 天智を名抄
なうらゝこし 西抄よ 三皇崇仰を名抄ホ同之

つれなきよとは 我まはあうらゝこし 云同之
ふ心ち 環翠翠の況を名抄よ 西抄よ 三皇崇仰云もぢぢぢり

よらあうらゝのさあゆらよらそみふれおまて云同之
西抄 清和同之 序云みふれおまてとは 思ひ

そめしよらとん乃しやくとおまひみうらゝを云
ふよかくおまひみうらゝとせむやん乃 西抄
志のぶもぢぢぢり

百人一首ういまさるびん 西抄



特別

千12

3643

200

65

70

75

80

85

90

95

